

(3) 県負担・補助率の考え方

- 平成 24 年度及び平成 29 年度に整備した GM サーベイメータ 12 台分及び平成 25 年度に整備した個人被ばく線量計については、UPZ 用として原子力発電施設等緊急時安全対策交付金を使用する。

(4) 類似事業の有無

無

3 事業費の積算内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
役務費	1,837	GM サーベイメータ及び個人被ばく線量計の点検・校正
修繕費	1,103	GM サーベイメータ及び個人被ばく線量計の修理
合計	2,940	

決定額の考え方

4 参考事項

(1) 各種計画での位置づけ

- 岐阜県地域防災計画【原子力防災対策計画】
第 2 章－第 1 2 節－1 活動用資機材の整備

県は、国から整備すべき医療資機材に関する情報提供を受け、放射線測定資機材、体表面汚染測定資機材、除染資機材、安定ヨウ素剤、応急救護用医薬品等の資機材の確保・整備に努める。

(2) 後年度の財政負担

- 継続して、点検・校正を行っていく。

(3) 事業主体及びその妥当性

- GM サーベイメータは県から福島県派遣者の帰岐時に使用している。また、GM サーベイメータや個人線量計は原子力災害時には、放射線体表面汚染検査等に必要な機器であり、県で維持管理を行う必要がある。

事業評価調書（県単独補助金除く）

<input type="checkbox"/>	新規要求事業
<input checked="" type="checkbox"/>	継続要求事業

1 事業の目標と成果

（事業目標）

・何をいつまでにどのような状態にしたいのか
 検査機器の定期的な点検・校正を行い、正確な放射線身体表面汚染検査を実施できるよう維持管理する。

（目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業開始前	R2年度	R3年度	R4年度	終期目標	達成率
	(R)	実績	目標	目標	(R)	
①	/	/	/	/	/	%
②	/	/	/	/	/	%

○指標を設定することができない場合の理由

検査機器の維持管理を行うものであり、指標設定はそぐわない。

（これまでの取組内容と成果）

令和2年度	・取組内容と成果を記載してください。 定期点検・校正等により、検査機器の測定精度を維持することができ、原子力災害時に正確な放射線身体表面汚染検査等が可能となった。
令和3年度	令和5年度当初予算にて追加
	指標① 目標：___ 実績：___ 達成率：___%
令和4年度	令和6年度当初予算にて追加
	指標① 目標：___ 実績：___ 達成率：___%

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

<p>・事業の必要性（社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断） 3：増加している 2：横ばい 1：減少している 0：ほとんどない</p>	
(評価) 2	GMサーベイメータは県から福島県派遣者の帰岐時に使用している。また、GMサーベイメータや個人線量計は、原子力災害時の避難退域時検査等に必要であり、維持管理の必要性は高い。
<p>・事業の有効性（指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか） 3：期待以上の成果あり 2：期待どおりの成果あり 1：期待どおりの成果が得られていない 0：ほとんど成果が得られていない</p>	
(評価) 2	GMサーベイメータや個人線量計の点検・校正、修理により、機器の必要な精度を保つことができ、避難退域時検査等の原子力災害時の医療活動を行う上で有効である。
<p>・事業の効率性（事業の実施方法の効率化は図られているか） 2：上がっている 1：横ばい 0：下がっている</p>	
(評価) 2	比較的、耐久性の高い個人線量計については、毎年度、所有台数の半数の点検・校正を行っており、点検・校正頻度は2年に1度となっていることから効率化が図られている。

(今後の課題)

<p>・事業が直面する課題や改善が必要な事項</p> <p>原子力災害の発生に備え、GMサーベイメータや個人線量計の精度を常に保つ必要がある。また、これらの機器が適切に扱えるよう、定期的に、関係者に対する研修や訓練を行っていく必要がある。</p>

(次年度の方向性)

<p>・継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか</p> <p>GMサーベイメータや個人線量計は、原子力災害時の避難退域時検査等に必要な機器であり、今後も定期的に点検・校正等を行っていく。</p>

(他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

<p>組み合わせ予定のイベント又は事業名及び所管課</p>	【〇〇課】
<p>組み合わせて実施する理由や期待する効果 など</p>	